「パパラッチ（双葉社）」
2006年7月号～2006年8月号

『ゴッドプロデューサーKAZUKIの大阪つれづれ日記』
バックナンバー

2006年8号

内容は次ページより

人物往来ーワ月ー

今月の変わった人

絵／東陽片岡

会社勤務の36歳、妻子持ちの男。こいつは事務員や身近な女の子の顔を次々と携帯電話のカメラで隠し撮りしてヌード画像と合成する、身近型アイコラ趣味なんや。ところが嫁が画像を観て、浮気と間違い、現在、離婚訴訟中や。

見つけたで!! 大阪新名物

100円ショップは知ってても、390円ショップは知らんやろ。大阪の心斎橋に在るんや。店のネーミングと値付けは、有り難うの心を込め「サンキュウで390ショップ」この安易な値付けと100円ショップの4倍近い金額やけど高さを感じさせないこの響きにワシはウキウキして店内に入ったんや。店内を見渡すと広く明るい造りなんやけど、何や異様な空気が流れてきたんや。よく観ると、押し寄せるように積まれた古着に中古雑貨、そこはまるで高級ブティックを古着や廃品の置き場にしたような空間やった。おまけに販売しとる商品のシャツやパンツは全部、擦り傷、染み付き、虫食い、穴だらけ。さらに靴下や靴は片一方だけでも平気で販売している怒ろしい感性なんや。ワシはカルチャーショックを受けて全身が痙攣したで、ついにワシは、開襟的に明るく頭が壊れとおる若い店員のねえちゃんと、店の空気に呪われ、商品の中でもトビキリ実用性の無い、おかしなドルマークデザインのメガネを買ってしもうたんや。（写真）。ワシはこのメガネで早速パチンコ屋へ直行して大負け食ったんや。クッソー。

『信じられん!!』大阪魂万歳

前田、この前、喫茶店で商談やのに40分も遅れて来たやろ、先に喫茶店で待っていたワシは帰ろうかと思うて自分の飲み物代金を精算したんやで。そんな時や。「エライすんまへん」言うて、不細工な女事務員つれてお前が入って来たんや。ワシは初っぱなから、おまえの作り笑いと事務員の顔の造形に不快やったんや。おまえと不細工な事務員が席に着いた時に、ウェイトレスが、ワシが精算した飲食代のお釣りを持って来てたやろ。覚えているか？おまけにワシは「ワシはもう、精算したさかいに、自分等の好きな飲み物を勝手に注文してや」と、言ったはずや。そやのにおまえ何を勘違いしたのか知らんけれど「ハンバーグ定食」っちゅうて、980円の食い物を注文したやろ。事務員も事務員やで。「私も社長と同じ物を、」っちゅうて、夕方やのに食い物を頼みやがった。そやけど、その時はワシも自分で払うんやさかいに好きな物、食うたらエエわ」と、思うとったんや。そやのに何やねん。自分等の用件が終わるなり、さっさと席を立ったやろ。そして「申し訳無いけど、割り勘でよろしいでっか？1000円、置いときますが、お釣りは結構です。ホンダラ」っちゅうて事務員と手をつないで出て行ったよな。何がホンダラや。おまえ、割り勘の意味を分かっているんか？何でワシが"顔面カッツ石松"の女事務員のエサ代を払わなアカンネン。ほんまに大阪の商人は怖いわ。

セコイ奴程良く騙ぐ

みんな知ってるか？黄色い鳥の伝説を…。ひょこは自分にくれたエサは勿論、仲間の餌まで横取りしよる。そして腹が取れない時は大騒をする迷人根性の強や！おまけに一年程で白い鳥に成長して、今度はくちばしで他人をツツキまくるタチ悪い生き物や。体の色が変わっても根性はさほど変化しよらん。後で分かったが前田の時世はひょこと違うか！

大阪名所案内 スパワールド 楽しみ方

大阪名物・通天閣のそばに「スパワールド」っちゅうドデカイ温泉が在るのを知ってるか？24時間ノンストップリゾート施設や。しかし、何処でもそうやけど、女は長風呂やで。せっかく来たんやから、全ての効能を一身に取り込もうとして、身体が溶けるかと思うほど湯に沈んどる。そして一年分の汗を絞りだそうと懸命や。一回で痩せて綺麗になれたら整形外科はいらんわい。その点、男は気楽やで。最初はサウナで腕立て伏せするアホもおるけれど、そんな奴は友達と来たオチャラケ野郎だけや。直ぐに熱きて風呂からあがりたがりよる。美に対する執念の違いっちゅうやつやろな。

さて、その日、ワシは露天風呂を満喫しとったんや。そうしたら案の定、大敵が現われよった。それは蚊や。あんたらもよう、覚えとき。露天風呂の大敵は暖かい熱気と衛環の良うなった血が豊富な環境に引かれて寄ってくる蚊やで。その日もワシは、足を蚊に3カ所も刺され脱衣所の時や。人の良さそうなオッサンが「これ塗っとき」ゆうて足に何やら塗ってくれよった。ワシは「流石、人情の街大阪や」と感動したで。しかし、やがてワシの足は焼きゴテを押し当てられたような熱さと痛みを感じたんや。そんなワシを観て、そのオッサンはポツリと言いよった。「肩こりは大変や"。クッソー、このオッサンめアンメルツよ○よ○を塗りやがった。大阪の温泉で一番の大敵は蚊と冗談でモガキ苦しんだんや。そ

●ワシの仕事●ワシはガキの頃からバリバリ臨死体験を重ねているんや。そやから9月頃から「あなたが体験した怖い話」を漫画で発表していこうと企んでいるんや。しかもカズちゃんも漫画で登場させたる！　そやけど…内容よりもカズちゃんの怪しいフェイスが怖いっちゅうてインターネットで書かれたら、どないしょうかいな…。まあ、新しい「都市伝説」を生み出したるわ。

ゴッド・プロデューサー KAZUKI（かずき）の 大阪（おおさか）つれづれ日記

ワシヤ〜

みんな「おげんこですか〜」。ワシや、カズやで。今、ワシは歴史ビデオの制作の準備でテンテコ舞いなんや。ビデオの内容はKAZUKI流「織田信長」と「安倍清明」の二本立てでや。どうや、かっこエエやろ。ところがこのビデオ制作会社、予算をほとんど持っとらん事が最近わかったんや。そして「予算を浮かす為に時代劇の衣装は一切無し。カツラも刀のような小道具も無しやで。それから、ロケ場所は一カ所、スタジオ撮りも「一回だけでお願いしまーす」っちゅうてアホな事をぬかしよる。おかげでワシ等は、背段着でおまけに刀の無い時代劇を撮らなあかん立場に追いやられたんや。これじゃ子供のチャンバラごっこや。ホンマに情けない……。そやけどワシも男や、一旦受けたからにはやらんとアカン。ワシの妙案とアイデアでこのピンチを切り抜けるんや。

そこでワシは出演者に快僧「織田無道」を誘ったんや。なんでかって？　答えは簡単や。寺も衣装も全て持ってはる。おまけに僧侶やからカツラもいらんやろ。ワシは「織田はん。今回の役柄はあんたにピッタリの主役級を用意しております。なんとか頼みますわ」っちゅうふうに調子エエ事を「銭湯の湯船くらい」に言うたんや（湯ばっかり…言うばっかり〜わかるか？）。すると織田はんは「私でよろしかったら、精一杯精進致します」と、答えてくれはった。織田はん、あんたはエエ人や。そやけど、織田はん、ごめんな。今、残っている役柄は殺された武将の「シャレコウベ」役だけや。

そやけど、ここでこんなネタバラシしてエエかいな？　ワシは自分の口が怖いわ。

なんでやねん

ホンマにSIZUKUにはたまげるで。同じ発音でも意味が変わりよる事に気が付いて、キャラクターを創りよった。

ペンギン三男

ペンギン次男

ペンギン長男

©Sizuku

これはSIZUKUがレンタルビデオで借りてきた映画『皇帝ペンギン』を録画しながら観て書いたらしいわ。何でもその内容に凄く感動したそうや。ワシもその番組を観せてもらったけれど…こんなペンギンも三兄弟も登場せえへんかった。SIZUKUは何を観てこれを書いたんだろうか？　ワシはこのキャラクターをペン切れ三兄弟と名付けたんや。

ワシのファッションは威圧感を重視。そやから夏でも柄物で厚手の服装や。柄は動物柄が主流やで。豹に虎に牛ちゃんや。この前は地元の商店街でネコ顔のフード付きパーカーをオカン（母）に買うたったんや。ネコやから「買う」やのうて「飼う」が正解かも…。オカンは喜んで試着しよったで。ところがや…、飼い猫六匹に襲われて服はボロボロや。ネコにオバンやったわ。

さあこれでキミも大阪（おおさか）人じゃ〜

KAZUKIプロフィール

ゴッドプロデューサーとして様々なメディアに登場中の謎の大阪人。市井の様々な人間を観察するかたわら、特殊な能力使った歴史小説も展開。昭和評論家でもある。著書に『平将門首塚の謎』（シーオー企画）等がある。

2006年7月号

内容は次ページより

人物往来－6月－

今月の変わった人

デカイ図体で大きな顔面。スーツ姿に金庫みたいに重そうな金玉…じゃなかった黒い鞄をさげて団地の5階ベランダに干してある女性下着に向って「奥さーん、奥さーん」と、何度も叫び、腰を振っとおるんや。あんたはモアイか。

見つけたで!! 大阪新名物

「かすうどん」って知ってるか？　メチャメチャ美味いど。ワシはこう見えても麺食いなんや。あんたがもしも「かすうどん」って聞いて"天ぷら"の「天かす」が入った「うどん」を想像したら…Boo～ちゃんブーやど。カスな奴が食べるうどんを想像した奴は死んでくれ。よう聞きや、「カス汁」は酒粕で「かすうどん」の"かす"は「油かす」が大阪流なんや。ほんだら油かすってなんやろ。これは牛ちゃんの小腸（ホルモン）を素揚げしたもんや。外はカリカリで中はプルプル。香ばしいで。コクと甘味がうどんの昆布だし一杯にジンワリ広がって、1回食べたら癖になる逸品や。このカスは大阪のお好み焼きの隠し味にも使うんやで。一つ、質うなったやろ。大阪に来たら一回は食べてや。ワシは美味い店を知っとるからオーイェイやけれど、不味い店に当ったら最悪や。偽物のカスを使った商品を出してきよるでー。ある店なんかはゾンビの唐揚げみたいなカスが入ってて舌がタダレてしもうたわ。もしも、あんたらがそんな店に当ったらワシを恐ます、自分を責めてや。ワシは料理正解（しようかい）しただけやで。

これが「油かす」やあ

『信じられん!!』大阪魂万歳

先月、ワシの近所の「わたなべ家具店」に強制執行が入ったんや。なんでも借金踏み倒してフッチかました（放置する）らしいわ。

しかし、事前に連絡を受けとおる渡辺のオッサンはバイトの兄ちゃんを残して一日中、雲隠れや。執行官が立会いを求めてもバイトの兄ちゃんは「僕…バイトやから、わからへん…」を繰返すテープレコーダーや。仕方なく執行官もそのまま執行を強行しようとした…その時や、一人の男が入って来よったんや。

「すんまへん。御主人いてまっか？」

急な来客の質問にバイトの兄ちゃんはやっぱり「僕…バイトやから、わからへん…」と、繰り返すんや。そうしたらその男は執行官に、

「この店の名前、何ていいまんねん？」

と、聞きよった。忙しそうに作業しとった執行官は仕方なく「わたなべ家具でっせ」と、答えたんや。すると男は言いよった。

「おかしいな？　店頭の看板にはそないな名前、あらへんで」

執行官は驚いて店先へ飛び出し、軒下の大きな看板を観たんや。すると、看板は「たなべ家具」と表示してあるやないか。執行官は驚きよったで。

そして「執行不能。執行中止」っちゅうて、一斉撤退や。後で聞いた話やけどな。渡辺のおっさんは前日に看板から「わたなべ」の「わ」の字を外して逃げよったらしいわ。当然、バイトも訪れた男もぐるや。大阪人はしょうもない知恵を恐ろしいほど働かせメチャしよるで。あんたらも学べよ。

家具屋の店主もさんざん儲けた末に夢雑往生したで久しぶりにワシが跡地を見に行ったらワシは自分の目を疑ったで昔からワシャ一妖怪含めていろんなものを見るがまさかこの跡地に世界でも数少ないハリーポッターで有名な鳥が居たのでワシーは思わずこれが神の道い（立つ鳥後を濁さず）かと思わず激写したでー

大阪（おおさか）名所案内 ナンパ橋の女

大阪は難波の「ひっかけ橋」って知ってるやろ。グリコのマークで有名な大阪の名所や。そして橋の角には交番があって警官が常に監視してくれとおる。この短い橋の上では難波という名前のとおり、常にナンパが行なわれとるんやが、ここでの駆け引きがメチャ面白いんや。「女は顔や」と自負するベッピンと、「女は心や」と意気込むブスの定番女コンビに、対抗するは中身の無い中年男コンビ。それをジャッジする警官の三つ巴の心理合戦や。女コンビは今日もタダ飯食わせてくれるアホ親父に年齢不詳の格好して、自分の値打ちを下げんように、思わせぶりと恥じらいぶりの"クロス攻撃"や。一方、男の方はナンパした女が18歳未満やったらブタ箱行きやけど、下半身に理性は無い。もう、目先のラブホテルでの快楽しか頭に浮かばへん"脳味噌ドーパミン状態"。そして警官は、オッサンが未成年を連れてホテルへ行ってくれ…。そうしたらすぐにパクッたる（逮捕する）で。そしてお前は地獄、俺は天国。点数あげて出世したるんや、と"漁夫の利攻撃"や。しかし、女は怖いで。何でかって？今回もそおや。さっきまでの目的を忘れて直ぐにプライドっちゅう、女特有の本能が目覚め始めるんや。今回も、女同士でどっちが上か、「ベッピン」と「ブス」が内紛を起こしよったんや。その結果ベッピンは自分に酔いしれ、ブスは他人に捨てられた（ナンパ橋でナンパされなかったブス）。実際酷いブスだった。

ワシは自分が考案した火星人の赤ちゃんキャラクター「いじけむし」を広めようと日夜活動してるんや。そして、このキャラの声は「なんでやねんのコーナー」で決して上手いとは口が裂けても言えない漫画を描いて、なぜか、奇妙にも掲載されているSIZUKUや。なんでも漫画家デビューするらしいでえ。ワシも知らんかったわ。さすが大阪の女や。その根性をワシの好きな映画（窓からローマが見える）に例えて社会の窓からアソコが見えるわ。

ゴッド・プロデューサー KAZUK（かずき）の 大阪（おおさか） つれづれ日記

ワシや、カズや。今回から内容一新。ワシのパワーアップに驚いてもええで。今までのワシは、妖怪が憑依しとる人々の喜怒哀楽を楽しむ人間ウオッチャーやったけど、イメージチェンジを図ったんや、ってな具合にカラ元気出しとるけど、ほんまは理由が有るねん。実は、この雑誌の気まぐれ編集長が「妖怪は飽きたから、明るく正しい人間ウオッチングしましょう」っちゅうふうに言いよったからや。その時ワシは愕然としたで。そらそうやろ。ワシは妖怪に近い人間と会うのが趣味やからその楽しみを奪われたんや。死刑宣告に近い気分やで。せやからワシは机を叩いて編集長に言うたったんや。「自分の都合で人の趣味をかえるなー」って。言ったつもりがなんかもやもやしてきて、気が付いたら夢やったんやー。ああ…おかげで日々慣れん取材に疲れ果て、ワシは電車の中で毎日居眠りこいとるわ。このまえも寝過ごしてたくさんの駅を飛ばしてしもうたわ。

今月のワシ

しかし今回はさすがのワシもたまげたでえ。ワシ本来アソコ以外は立つのが嫌やから電車でも座るんや、ワシがいつも通り座ってると目の前に立っていた嫌な感じのボウフラ（亭主に暴力を振るわれても別れない）オバハンが話しかけてきよった。

「あなた、どうみても男だけど、何処そこに座ってるの？」

と苦手な東京弁で小言を言いよった。ワシはとっさに「人をみかけで判断するなワシは虚弱体質なんで座らんとすぐ酔うんや」と意味不明な反論をしたらそうしたら、そのボウフラオバハンが「あらそうなの。ゴメンナサイね。あなた今、流行のおなべちゃんだったのね」っちゅう捨て台詞を残して消えよったんや。良く見たらワシの座ってた席は女性専用車両だったんや。クッソー、人をオナベと間違えやがって勝手にワシの写真を撮るな！

なんでやねん

大阪弁の場合

標準語の場合

東京弁はシリアスや。その点、関西弁は喜劇やお笑いを想像させよる。名場面も台無しや。

ワシのファッションは下着第一主義や。通気性も気にしとる。せやからパンツはグ○ゼ社の綿100%の白色ブリーフＬＬサイズ。おまけに価格が泣かせるで…。上下３枚セットで980円。お値打ちやろ。購入場所は兵庫県尼崎にあるサンシンっちゅう店や。勿論、店長は阪神タイガースのファンや。しかし、顔は半身不安や。店名もいっそ三振にしとけや。

KAZUKIプロフィール

ゴッドプロデューサーとして様々なメディアに登場中の謎の大阪人。市井の様々な人間を観察するかたわら、特殊な能力使った歴史小説も展開、昭和評論家でもある。著書に「平将門首塚の謎」（ジーオー企画）等がある。